

第20回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧ください。

2006年 8月 15日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jjin-ogura@management-dynamics.co.jp

ただ単に「～が合っていない」は気をつけよう

私たちは、よく簡略して物事を捉える傾向にあります。

この傾向は、対象とする物事に接する機会が多い人ほど顕著のようです。

頭の中ではなんとなくわかっているのですが、いざ言葉にしようとする、いつも世間話をしている時のように簡略的に言葉を用いてしまいます。

例えば、洗浄用のノズルに問題がある時に、出てくる表現は、

「ノズルが合っていない」

といった類の表現です。

「ノズルが合っていない」といっても、どのように合っていないか良くわからない表現です。

このような表現を用いて、「なぜ」を展開しても、より具体的な要因、または対策が出てきません。

また、「合っていない」といっても、以下に挙げたように色々な「合っていない」事があります。

いわゆる、

形状(入り口と出口の両方の穴径含む)に関する事なのか

(接続するパイプとの合わせに関する事)

(1本のノズルから出てくる水の洗浄範囲に関する事)

(1本のノズルから出てくる水の強さに影響する出口と入り口の径の比率に関する事)

距離に関する事なのか

(水平方向の位置に関する事なのか)

(高さ方向の位置に関する事なのか)

材質に関する事なのか

角度に関する事なのか

本数に関する事なのか

などです。

このように、できるだけ他の人もイメージできる具体的な表現を駆使して、「なぜ」を展開していきましょう。

とくに、新人の方々、または移動してきたばかりで自職場のことがよくわからないの方々、今がチャンスです。

大いにその職場の先輩の方々に対し、何を言わんとしているのか明確にしてあげましょう。

なぜなら、その職場に長くい続けた人ほど、上記のような不備な表現を用いるからです。

以上